

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102361		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム双葉の家(1ユニット)		
所在地	浜松市南区古川町234		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	平成30年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102361-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「双葉の家」は開所より14年目を迎え、出来る事はやって頂き出来ない事は援助しながら入居者の皆様が楽しく穏やかに過ごせるような施設を目指して参りました。今年は酷暑が続く散歩も出来ない日が多くありました。下肢筋力低下予防の為に一層レクリエーションに力を入れてきました。おかげで大きな怪我・病気もなく過ごすことが出来ました。裏の畑では野菜がたくさん採れ、なす・トマト・キュウリなど安全で新鮮な野菜でビタミン補給が出来、食卓を飾ることが出来ました。外部より来設された方は「皆さんの顔が明るく、表情が豊かで穏やかでいいですね」と言って下さり、大変ありがたくやりの感じがします。これからも、その人に合ったその人らしい寄り添う介護を目指して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「午前10時半からサークルとなって体操や歌から始まるレクリエーション」を位置付け、その後は散歩が日課となっていることから、急ぐ人はサークルとなった時点から日除けの手袋や帽子を装着して意気揚々としています。歩ける人はグループで、少し足元が頼りない人は職員とペアとなり、散歩コースもいくつかあります。朝番、日勤、遅番6名の職員が揃う時間帯に順次対応し、利用者は自分の順番が廻ってくるまで玄関先でランタナや向日葵を眺め、鉢の中を泳ぐメダカを愛でていて、その様子に事業所での暮らしの穏やかさが凝縮されています。畑では胡瓜やトマト、さやえんどうを栽培しての外気浴も十分で、外活動が充実している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「政本グループの目指す介護サービス」を読みあげ、業務に入るようにしている。施設独自の理念を掲げている	事業所理念は職員皆で考えたもので開設以来から変わらず浸透していて、法人グループの理念は毎朝勤務者で読み上げています。そのため本日助け合う関係であることを確認するとともに、意識すべき点を踏まえて業務に取り組むことができています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的なボランティアの訪問があり、地域の祭典や敬老会へ参加の声かけを頂いている。散歩で近所の方との日常的な交流も多くあり親しくさせて頂いている	14年の歴史と毎日の散歩で認知度は高く、見知らぬ人から野菜が届くこともあります。三味線の若草会、10名余と賑わいのある南陽ハーモニカ、山形出身者で結成した本格的な遠州花笠会が定期的に訪れ、近隣の企業から「いつでも～」と、厚意で駐車場を借りることもできています。	園児、生徒の学校とは距離があり親交が難しいため、レクリエーションが得意な点を活かしてクラフト作品を保育園などに寄贈することも考えください(その関わりから運動会への招待等が期待できるため)。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は遠方の人の入居が多かったが、最近では近くの人が口コミで入所されるケースが増えてきた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の定期的な開催をしており、職員・家族・地域の方・行政の方が出席され、情報交換やサービス向上の為の話し合いが行われている	民生委員からは職員のメンタルケアへの親身ないたわりの言葉をもらえ、市役所職員には「飯田公園の洋式トイレの改善～」について忌憚なく進言でき、和やかな雰囲気の中で密で多様な話し合いが叶っています。	現在の開催が日中ということから自治会長、家族の出席が得られないとのことで、年6回の内1回を夜間または休日開催とすることも検討ください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで地域包括支援センター職員や市の職員と交流を図り、情報交換やケアサービスへの助言を頂いている	地域包括支援センター職員は運営推進会議に毎回出席くださっています。介護申請や運営推進会議の議事録を届けたり、また生活保護者を5名受け入れていることから他課との連携もあり、月に1～2度は市役所の窓口に出向いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主体の研修や定例会にて身体拘束への取り組みを行っている。入居者の思いを尊重し、外に出たい入居者に職員が付き添うなどのケアを行っている	身体的拘束適正化検討委員会を立ち上げています。すでに4月と7月に会議を開き、次回は10月を予定し、本年度の法改正に基づき年4回の実施することとしています。法人主導の教育も年間研修に組込まれており、現状拘束が必要となる症状をもつ利用者はいません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアル等があり、職員一同お互いに注意し合える環境作りを心がけている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を路用している入居者がおり、分からない事があれば、その都度質問し知識として情報共有している。成年後見人の講座に出掛けた職員もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分時間を撮り説明をおこなっている。その場にて説明や質問に対応することで納得されている。いつでも疑問に答えられる体制を取っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回発行の「双葉だより」を利用し、施設の行事内容や本人の近況を知らせ、家族の意見・要望を聞いている	普段家族と親密というわけではありませんが、移設して、その先で亡くなった元・利用者の通夜、葬式には管理者、職員が出向いています。葬儀場では「事業所で撮影した写真が会場いっぱいに掲示され～」といった例は一つや二つではなく、家族からも大いに感謝されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度定例会やカンファレンスで取り上げ話し合っている	毎日13時25分からカンファレンスがあり、困っていることをはじめとする報連相がタイムリーに解決できる場があります。職員の意見は利用者中心で運営にまで及びませんが、月の御茶代として集金のうえ珈琲や日本茶を自由に飲めるようにしている等チームワークの良さが強みです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部のマニュアルに沿って業務に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的に資格を取りに行く職員には、便宜を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月2回の管理者勉強会及び会議で情報交換をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添ったケアプランを作成し、職員で共有してから介護にあたっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、少しでも不安を取り除けるように家族の希望や要望をよく聞き、ケアプランを作成している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際、家族の話をよく聞き、希望や要望に沿ったサービスの提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂けるように職員がいつのそに寄り添うようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にして一緒に考えながら取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て下さる人が落ち着いて話が出るように会議室を提供している。	面会のない利用者の寂しい気持ち、面会では落ち着いて話したい家族の気持ちに配慮して、面会室を用意しています。ソファやお茶セットを置き、友人・知人もゆっくりできます。また化粧や健康食品を継続する利用者には家族が持ち込んだり、職員が買い物支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1, 2号館が自由に行き来出来るようにしている。レクリエーションをを通じて18名が顔見知りになるように努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動されても面会など行っており、家族からの相談事は親身になって考え、以前と変わらない対応を心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望を言える環境作りを行っている。自分の意向が伝えられない人には、こちらからその人の思いを汲み取っている	「きっと、こんなことをしたいのだろう」と推し測ってアプローチすることで、発語となったり、やりたい事が見えてくることがあります。ニーズは概ね介護計画書に記されていますが、ゲームや貼り絵と一緒にやるなど隣りに座って雑談をする中でウオントの把握ができることもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者と対話をしながらその人なりの人生を大切に、その人に適した介護を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に経過記録や申し送り等をよく読み業務に入っていない時間の状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日カンファレンスをして問題があれば話し合っている。家族には電話・手紙で近況を知らせ、介護計画を作成している	毎日のカンファレンスで現場では即時対応が叶い、書面としては3ヶ月に1度モニタリング、半年に1度介護計画書の見直し(書き換え)と、ルールに準じています。更新時に家族に立ち合いを求めますが、実際席に就いてくださることはなく、事業所に「お任せ」状態が続いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に経過記録ノートがあり、毎日記入している。毎日のカンファレンス時に話し合った事をノートに記入し、職員が業務前に目を通している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望で外部よりマッサージ師が週1回来設している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の氏神様の祭典に招待を頂いたり、ホームの行事には回覧などで地域の人達を招待している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回協力医受診の付き添いをしている。心身状態を把握し、適切な医療を受けられるよう支援している	月1回職員支援で定期受診する協力医に全員が変更しています。他科は基本的には家族にお願いしていますが難しいとなれば職員が代行したり、介護タクシーを使う家族もいます。医療情報は、家族の口頭報告も含み本人の経過記録やカンファレンスノートに記録を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃気づいた事を訪問看護師に伝え、指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の様子を見に行ったり、病院関係者や家族と話し合いを持つようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医・家族・職員と連携を持ち、十分話し合い次のステップに進むように対応している	看取りについては契約時に「ケースバイケースである」と説明し、症状の変化の都度話し合っています。ここ数年は移設・入院が大半で事業所内で看取ってはいませんが、協力医も「そうなれば協力する」と言ってくれるほか、普段も訪問看護事業所から週2回看護師が来所しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講座に参加し実践力を身に付けている。落ち着いて行動に移せるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を職員・入居者全員で行っている。地域の皆様にも自治会を通じ、協力体制ができています	地震からの火事想定、風水害想定其々について日中、夜間の2パターンの訓練をおこない、ユニット間の避難誘導では日頃の散歩が功奏しているのか、利用者はスムーズに動いています。「日常ベルが鳴れば駆けつけるよ」と、複数の民生委員から言ってもらえている点は安心材です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の先輩であり敬意をもって対応している	職員の言動は総じて丁寧で優しく、対人援助職としてのマナーを心得ています。利用者の中には「放さないぞ」とばかりに職員の手を握り締めている人もいて、「好きなんだ」「頼りとしているんだなあ」ということが伝わります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしく生活が送れる様にアドバイスしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて1日を穏やかに過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容業者に好みの髪型に整髪してもらっている。化粧を行う入居者もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭き、食器拭き等と一緒に、畑で採れた野菜の皮むきや筋取りを楽しみながら行っている	ご飯、味噌汁は手づくりで、惣菜は半製品を職員が仕上げています。「レンコンが硬い」という利用者もいて、職員から「薄いから大丈夫じゃない？」とか「カットしようか」と声かけが入り、おかずを残していた利用者には栄養を補うよう代替を提案するなどの心配りが見られます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部より、栄養バランスのとれた食事を提供している。一人一人の状態に合わせて食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、その人に合った方法で口腔ケアを欠かさず行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下肢筋力強化の体操をレクリエーションに加え、一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導・介助を行っている	「いつまでもトイレで」と運動も繰り返し実施し、またたとえ失禁が増えてしまっても、本人に「夜はオムツにしましょうか」と言いにくい場合には職員が安易に確認したりせず、管理者が会話の中でさりげなく言うようにしており、本人の気持ちを第一にする態勢があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・散歩は個々に合わせて取り組んでいる。声掛けし水分を多めに摂って頂くように努めている。個々に応じて、排泄状態を観察し、記録を作成している。主治医とも相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回となっているが、希望すれば毎日入浴することができる。その人の希望を優先している	入浴は1週間に3回を目安としていますが、「毎日入りたい」という人がいれば応えることもでき、柔軟な対応を旨としています。大きな浴槽には仲良し2、3名で湯に浸かることもあって入浴タイムは賑やかで、みかん、柚子湯などのかわり湯をおこなう日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋でゆっくりテレビを見たい方、居室で過ごされたい方、その人に合った対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲用を理解している。日付・名前の確認をし、誤飲のないようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵・ぬり絵・パズル等その人に合った楽しみごとをして頂いている。散歩・外食・遠足等、戸外へ出る機会を作っている。個人的な嗜好品は家族に買って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足や外食等の計画を立て戸外に出掛けたい。本人の希望があれば買い物支援も行っている	歩ける人は2~3名で、少し足元が頼りない人は職員とマンツーマンで散歩に出かけるのは恒例で、コースもいくつかあります。6名の職員が順次対応していますが、十分ではないため、自分の順番が廻ってくるまで玄関先の花を眺めたり、鉢の中を泳ぐメダカを愛でています。	予算や人手等の事情が続き遠足実施を断念することになっていて、その代わりとして次回は回転寿司が企画されているものの、家族に一度アンケートをとるなどして「年に1度程度の楽しみに関するの予算～」を確認していくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、スーパーや洋品店に出掛け、嗜好品や洋服など選んでもらい、出来る方は自分で財布から支払いをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を直接家族に電話し、話せるよう援助している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の雰囲気を感じてもらう為に玄関には季節の花を植え、リビングには、季節に応じて掲示物を作り展示している。室内の温度管理は職員に合わせるのではなく、入居者の声を聞き調節している	玄関先に咲くランタナや向日葵を眺め、鉢の中を泳ぐメダカを愛で、玄関ホールには職員が家宅から持ち寄った薔薇や菊の花が活けられ、時節の風情が満ちています。リビングの壁を飾る大きな木は、季節ごとに実る果物や小動物が変化していて、利用者の話材となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、ゆっくり過ごせるようにしている。気の合った入居者同士お話し出来るよう、席替えなども配慮して行っている。1号館と2号館を自由に行き来出来るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自分の物や馴染みのある物を持ち込んで頂き、壁には写真などを貼り、殺風景にならないよう工夫している	洗面台脇にかかるタオルは毎朝新しいものに替えていて、清潔です。手アイロンをしたかのように衣類や寝具がピシッリとしている居室、レクリエーションで制作した鶴や猫のクラフト作品が整然と置かれていたり、また皆でおはぎをつくった際には必ず供える仏壇のある部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで館内には手すりが設置しており、安全に移動出来るようになっている。自室がわからない入居者のドアには大きく名前を書いて貼るなど、できるだけ自分で行き来できるように配慮している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102361		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム双葉の家(2ユニット)		
所在地	浜松市南区古川町234		
自己評価作成日	平成30年9月5日	評価結果市町村受理日	平成30年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2277102361-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「双葉の家」は開所より14年目を迎え、出来る事はやって頂き出来ない事は援助しながら入居者の皆様が多く楽しく穏やかに過ごせるような施設を目指して参りました。今年は酷暑が続く散歩も出来ない日が多くありました。下肢筋力低下予防の為に一層レクリエーションに力を入れてきました。おかげで大きな怪我・病気もなく過ごすことが出来ました。裏の畑では野菜がたくさん採れ、なす・トマト・キュウリなど安全で新鮮な野菜でビタミン補給が出来、食卓を飾ることが出来ました。外部より来設された方は「皆さんの顔が明るく、表情が豊かで穏やかでいいですね」と言って下さり、大変ありがたくやがりがいを感じます。これからも、その人に合ったその人らしい寄り添う介護を目指して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「午前10時半からサークルとなって体操や歌から始まるレクリエーション」を位置付け、その後は散歩が日課となっていることから、急ぐ人はサークルとなった時点から日除けの手袋や帽子を装着して意気揚々としています。歩ける人はグループで、少し足元が頼りない人は職員とペアとなり、散歩コースもいくつかあります。朝番、日勤、遅番6名の職員が揃う時間帯に順次対応し、利用者は自分の順番が廻ってくるまで玄関先でランタナや向日葵を眺め、鉢の中を泳ぐメダカを愛でていて、その様子に事業所での暮らしの穏やかさが凝縮されています。畑では胡瓜やトマト、さやえんどうを栽培しての外気浴も十分で、外活動が充実している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「政本グループの目指す介護サービス」を読みあげ、業務に入るようにしている。施設独自の理念を掲げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	定期的なボランティアの訪問があり、地域の祭典や敬老会へ参加の声を頂いている。散歩で近所の方との日常的な交流も多くあり親しくさせて頂いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は遠方の人の入居が多かったが、最近では近くの方が口コミで入所されるケースが増えてきた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の定期的な開催をしており、職員・家族・地域の方・行政の方が出席され、情報交換やサービス向上の為の話し合いが行われている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などで地域包括支援センター職員や市の職員と交流を図り、情報交換やケアサービスへの助言を頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人主体の研修や定例会にて身体拘束への取り組みを行っている。入居者の思いを尊重し、外に出たい入居者に職員が付き添うなどのケアを行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束マニュアル等があり、職員一同お互いに注意し合える環境作りを心がけている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を路用している入居者がおり、分からない事があれば、その都度質問し知識として情報共有している。成年後見人の講座に出掛けた職員もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分時間を撮り説明をおこなっている。その場にて説明や質問に対応することで納得されている。いつでも疑問に答えられる体制を取っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月一回発行の「双葉だより」を利用し、施設の行事内容や本人の近況を知らせ、家族の意見・要望を聞いている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度定例会やカンファレンスで取り上げ話し合っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部のマニュアルに沿って業務に取り組んでいる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的に資格を取りに行く職員には、便宜を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月2回の管理者勉強会及び会議で情報交換をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添ったケアプランを作成し、職員で共有してから介護にあたっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の際、少しでも不安を取り除けるように家族の希望や要望をよく聞き、ケアプランを作成している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の際、家族の話をよく聞き、希望や要望に沿ったサービスの提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はして頂けるように職員がいつのそに寄り添うようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡を密にして一緒に考えながら取り組んでいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来て下さる人が落ち着いて話が出るように会議室を提供している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1, 2号館が自由に行き来出来るようにしている。レクリエーションをを通じて18名が顔見知りになるように努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動されても面会など行っており、家族からの相談事は親身になって考え、以前と変わらない対応を心がけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや希望を言える環境作りを行っている。自分の意向が伝えられない人には、こちらからその人の思いを汲み取っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者と対話をしながらその人なりの人生を大切に、その人に適した介護を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に経過記録や申し送り等をよく読み業務に入っていない時間の状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日カンファレンスをして問題があれば話し合っている。家族には電話・手紙で近況を知らせ、介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に経過記録ノートがあり、毎日記入している。毎日のカンファレンス時に話し合った事をノートに記入し、職員が業務前に目を通している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望で外部よりマッサージ師が週1回来設している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の氏神様の祭典に招待を頂いたり、ホームの行事には回覧などで地域の人達を招待している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回協力医受診の付き添いをしている。心身状態を把握し、適切な医療を受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃気づいた事を訪問看護師に伝え、指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人の様子を見に行ったり、病院関係者や家族と話し合いを持つようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医・家族・職員と連携を持ち、十分話し合い次のステップに進むように対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講座に参加し実践力を身につけている。落ち着いて行動に移せるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を職員・入居者全員で行っている。地域の皆様にも自治会を通じ、協力体制ができている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は人生の先輩であり敬意をもって対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人らしく生活が送れる様にアドバイスしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて1日を穏やかに過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容業者に好みの髪型に整髪してもらっている。化粧を行う入居者もいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭き、食器拭き等を一緒に行い、畑で採れた野菜の皮むきや筋取りを楽しみながら行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部より、栄養バランスのとれた食事を提供している。一人一人の状態に合わせて食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、その人に合った方法で口腔ケアを欠かさず行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下肢筋力強化の体操をレクリエーションに加え、一人一人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導・介助を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・散歩は個々に合わせて取り組んでいる。声掛けし水分を多めに摂って頂くように努めている。個々に応じて、排泄状態を観察し、記録を作成している。主治医とも相談している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回となっているが、希望すれば毎日入浴することができる。その人の希望を優先している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋でゆっくりテレビを見たい方、居室で過ごされたい方、その人に合った対応をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲用を理解している。日付・名前の確認をし、誤飲のないようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵・ぬり絵・パズル等その人に合った楽しみごとをして頂いている。散歩・外食・遠足等、戸外へ出る機会を作っている。個人的な嗜好品は家族に買って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足や外食等の計画を立て戸外に出掛けて行っている。本人の希望があれば買い物支援も行っている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、スーパーや洋品店に出掛け、嗜好品や洋服など選んでもらい、出来る方は自分で財布から支払いをしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を直接家族に電話し、話せるよう援助している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭の雰囲気を感じてもらう為に玄関には季節の花を植え、リビングには、季節に応じて掲示物を作り展示している。室内の温度管理は職員に合わせるのではなく、入居者の声を聞き調節している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、ゆっくり過ごせるようにしている。気の合った入居者同士お話し出来るよう、席替えなども配慮して行っている。1号館と2号館を自由に行き来出来るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ自分の物や馴染みのある物を持ち込んで頂き、壁には写真などを貼り、殺風景にならないよう工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで館内には手すりが設置しており、安全に移動出来るようになっている。自室がわからない入居者のドアには大きく名前を書いて貼るなど、できるだけ自分で行き来できるように配慮している		